

## 三月の句

はるさめや  
よもぎをのばすくさのみち

春雨や逢をのばす艸の道・松尾芭蕉

はるさめに  
ぬれつつやねの てまりかな

春雨にぬれつつ屋根の手毬かな・与謝蕪村

むらさきの  
そでにちりけり はるのゆき

紫の袖にちりけり春の雪・小林一茶

えきちようも

なみだめにして かふんしよう

駅長も涙目にして花粉症・北川光子

はなごろも

あいにいきたき ひとのあり

花ごろも逢ひに行きたき人のあり・兼まどか

三月になりました。一年かん、おんどくの  
れんしゅうをしてきました。はいくをいくつ  
おぼえましたか。あんしようでできるボエムは  
あります。これからも、ひとつでもおおく  
あんしようでできるようにいっぱいれんしゅう  
しましょう。



### 森の夜明け

よだじゆんいち  
与田準一

クルミのおとで  
よがあけます、  
もりのなかの  
リスのおうち。  
ぽりん ぽりん  
かりん かりん、  
ぽりん ぽりん  
かりん。



おほしさまだれが  
けすのでしよう、  
リスはクルミで  
あさのごはん。  
ぽりん ぽりん  
かりん かりん、  
ぽりん ぽりん  
かりん。

もりのなかにもあさがきました。リスが、あさごはんを  
たべています。どんなおとがするでしょう。  
「ぽりん、かりん」をくふうしながらよんでみましょう。



## ひなたぼっこ

つくしてのお

くりくりあたまに  
おひさまあびて いいきもち  
はかまをくすぐって  
はるかぜが とおりぬけ

ぼくは ちょっぴりせがのびた  
ねっこふんばり おねをはり  
もんしろちように きいてみる  
「ね、ぼく いいおとこ？」

つくしがはえているところをおもいだして  
みましょう。つくしがもんしろちように  
きいているところがおもしろいでしょ。  
つくしのうれしさがあらわれるように  
たのしくよんでみましょう。



## 竹取物語 3 貴公子たちの妻問い

せかいのおのこ、  
あてなるもいやしきも、  
いかでこのかぐやひめを  
えてしかな、みてしかなと、  
おとにききめてまどう。

世界のをのこ、貴なるも卑しきも、  
いかでこのかぐや姫を得てしかな、  
見てしがなど、音に聞きめてて感ふ。

そのあたりのかきにも、いえのにも、  
おるひとだにたわやすく  
みるまじきものを、  
よはやすきいもねず、  
やみのよにいでも、  
あなをくじり、かいまみまどいあえり。

そのあたりの垣にも、家の門にも、  
をる人だにたはやすく見るまじきものを、  
夜は安きいも寝ず、闇の夜にいでも、  
穴をくじり、かいまみ惑ひ合へり。

さるときよりなん、  
よばいとはいいける。  
さる時よりなむ、よばひとは言ひける。

ひとつのものともせぬところ  
まどいありけれども、  
なにのしるしあるべくもみえず。

人のものともせぬ所に感ひありけれども、  
なにの験あるべくも見えず。

いえのひとどもに  
ものをだにいわんとて、  
いいかくれども、ことともせず。

家の人どもにもをだに言はむとて、  
言ひかかれども、ことともせず。  
あたりをはなれぬきんだち、よをあか  
しひをくらす、おおかり。

あたりを離れぬ君達、  
夜を明かし日を暮らす、多かり。



美しく成長したかぐや姫と結婚したいと  
多くの人が翁の家に來ました。一目見るために  
家の前で夜を明かす人もいるほどでした。

